

フクシマの子どもサマーキャンプ インタビュー

日差しがどんどん強くなって、活動の季節がやってきましたね。

皆さん、**保養キャンプ**ってご存知ですか？放射能の汚染が強い福島に暮らす子どもたちに、汚染の少ない場所でリフレッシュしてもらおうというもの。小諸で今回4回目となるサマーキャンプが開催されます。企画・運営している「フクシマの子どもサマーキャンプサポート隊」のメンバーで御代田町在住の**重田礼子**さんにインタビューしました！



◎サマーキャンプについて…

去年は小諸の糠塚園で7日間行いました。福島から**子ども22名、母親2名**が参加、小学生が中心でみんなとても元気！自然の中で公園やプールで思いっきり遊びました。放射能から逃れて、少しでも空気の良いところで新鮮な野菜を食べて遊んでもらいたい、ただその思いで支援を続けています。子どもたちの「楽しかったよ！また来るね！」の声や、子や母親からの嬉しい手紙にはげまされます。

◎活動4年目にして思うこと…

先日、福島親子を保養に出す活動を続けている**関久雄**さん（二本松市在住）のお話と「むすんでひらいて佐渡へついの家」（2013年佐渡保養キャンプの記録）の上映会に参加しました。「へついつい」とはかまびのこと。古民家を借りてかまどを作り、子どもたちは薪を作ってご飯を炊き、風呂の火を焚いて沸かし、海や山で遊び、食べ、片付け、電気に頼らない暮らしを体験して、自分で工夫して生きる術を学んでいく。いつか小諸のキャンプでもそんな支援ができれば最高に素晴らしいと思いました。私たちも保養活動を通して、「誰とどんな社会で生きたいか」希望のビジョンをもち、「原発を無くす為にはどうしたら良いのか」思考を止めずにいたいと思います。これは自分たちの問題なのだから…

（素直なお話ありがとうございます！）

サマーキャンプに参加しよう！

★カンパ大募集！

寄付や援助が少なくなって、資金集めが厳しい状況だわです。

★ボランティア募集！

特に朝昼晩の食事を作るスタッフが不足。その他子どもの見守りや食料提供も歓迎！

連絡先：杉田 090-8949-3566

カンパ：ゆふな銀行

記号11110 番号3584941

★チャリティコンサートもやりますよ

詳糸田はあいたねイベントに！

インタビューを終えて…



事故から4年目に入り、関心の低下、事故から4年目に入り、関心の低下、
「なかったことに…」とも思えるような世の風潮がある中で、この問題に向き合い続けていく必要性をかんじます。キャンプに3年連続で参加している中学生の男の子は、放射能のことをしっかり自覚していて毎年参加することを約束してくれているそう。福島では小児甲状腺がんの発症がすでに約50人一異例の数です。でも、国も自治体もその原因を放射能と認めない。検査も不十分です。ここ東信地域でも汚染の強い所があります。福島の子も、地元の子も、私たち市民が子どもたちの健康を守っていくねば…と思う、震災から4度目の春です。③